入　選

生きることを支える
六百坪の庭造り

加藤日出美様

入　選

豊かな自然の中での野菜作りを目標に、この地に移住した夫は夢半ばで他界した。私は喪失感からくる悲しみ、苦しみ、思慕の情に支配される長い日々を過ごした。次第に闘病中でも前向きに自身の人生と向き合った夫の姿を強く意識するようになった。

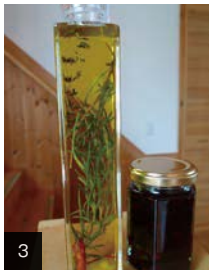
目の前の畑は日々荒れていく。これでは夫が力を注いだことが無駄になると思い、そこから私は六百坪の庭造りを始めた。これから生きていく上で自分がどういう日常を過ごしたいか考え、「花に囲まれた生活」を選択した。

広さがあるので、テーマを作って区切ることにした。居間から見えるアルケミラモリスが緑取りの第一ガーデン。夫が手作業で作り上げたビニールハウスの骨組みを遺した第二ガーデン、植物を左右対称に植えたミラーガーデンとアナベルやエロディウム、フィリベンデュラを配したボーダーから成る第三ガーデン、それに夫が植えたブルーベリーやプラムなどのある果樹ガーデン、そしてルピナスやハマナスが咲くワイルドフラワーガーデン。夫が尽力した事や物を庭の中に遺し、生かすことを一番に考えた庭造りだった。

朝の爽やかな空気と繁茂する木々の中で深呼吸し、小鳥の声を聞きながら、手作業で毎日コツコツ除草、耕し、土作り、苗植え、株分け、植え替えなどを続けた。ただただ無心に手を動かすことが、これ程気持ちを落ち着かせてくれることを初めて知った。手作業は時間はかかるが、土の状態を実感でき、ミミズやアリ、そして昆虫の卵の存在に気づくことができる。それは「命」に気づき、触れることだった。

一株一株の植物の「命」が集まり、風景を作り出すことに気づき、その「命」が輝くように少し手を加えるのが私の仕事と思うようになった。他の「命」と関わることで、責任が生じ、自ずと健康的な生活をするようになったと思う。

雨の日はハーブオイルやジャムを作る。夫の植えたハーブや果樹が毎年芽吹き、成長し、収穫できることは植物を通じて彼の「命」を実感することだとも思う。庭造りを通して、私は死別のさまざまな感情を少しずつ整理できてきたように感じている。植物に励まされている。植物、庭、夫に感謝しつつ、これからも丁寧に愛情を込めて、「命」溢れる庭と関わっていきたいと思う。


3

2

1

5

4

1. 第一ガーデン
2. アルケミラモリスの縁取り
3. ハーブオイルとブルーベリージャム
4. 第二ガーデン
5. 第三ガーデン
6. 果樹ガーデン　プラム
7. ボーダー

7

6

講評

伴侶を亡くした喪失感が募る日々が過ぎていき、次第に手が入らない畑が荒れ果てていくのを前にしても、植物に背を向けず、花に囲まれた生活を選んだ日出美さん。夫婦で過ごした生活圏には、きっとさまざまな思い出が残っていたかもしれませんが、なかでも共に畑を作っていた記憶が鮮明に残っていたのでしょうか。伴侶が生前に残した植物を主役にしてエリア分けすることに思い立ち、庭のデザインが決まり、目指す未来が定まって動き出す新しい暮らし。想像していなかった喜びを数々得ながら、悲しみの感情も整理されるまでになった。行動も心をも変える植物の癒やしの力に改めて感動しました。「命が輝くように少しずつ手を加えることが私の仕事」と、揺るぎない目標を胸に六百坪もの庭を維持することは大変なご苦労と思いますが、写真に写る植物たちが生き生きとしていることからも、日出美さんの庭にかける思いや日々の喜びが伝わってきます。

GARDEN STORY
ガーデンストーリー
編集部